

5回生 必修科目「家庭基礎」授業のシラバス

教科名	家庭	科目名	家庭基礎	単位数	2単位
科目の目標	○人間の健全な発達と生活の営みを総合的にとらえ、家族・家庭の意義、家族・家庭と社会とのかかわりについて理解できる生徒 ○生活に必要な知識と技術を身に付け、男女が協力して家庭や地域の生活を創り出すことのできる生徒				
教科書	家庭基礎 主体的に人生をつくる		副教材	生活学 Navi	

1 学習の目標

- (1) 人の一生と家族、子どもの発達と保育、高齢者の生活と福祉、衣食住、消費生活等について関心をもち、よりよい生活を求め意欲的に取り組む態度を養う。
- (2) 自立した生活者としてこれからの家庭生活を主体的に生きていく力を身につける。
- (3) 生活に関する基礎的・基本的な知識と技術を総合的に身に付ける。
- (4) 個人の課題研究を通して、課題設定能力、問題解決能力、情報発信力を育てる。

2 学習の方法

- (1) 予習について
 - 課題研究に関しては滞りなく進めていくための準備が必要です。意欲的に取り組みましょう。
- (2) 授業について
 - 日常の授業を大切に、黒板を写すだけではなく、内容を書き取り自分だけの参考書になるようなプリントをつくりましょう。
- (3) 復習について
 - 授業で学習した知識や技術を実生活の場で活用しましょう。すぐに取り組んでみるのが最重要ポイントです。

〈学習アドバイス〉

○家庭基礎の授業は、教室での座学と実習を組み合わせで行います。授業規律を守り、集中して授業や実習に参加しましょう。
 実習の評価は準備や後片付けも含まれますので、身だしなみや道具の準備、実習態度などきちんとした態度で学習してください。
 ○皆さんのこれからの人生を展望しながら、ライフステージごとに起こりうる生活課題をテーマに掲げ、見通しを持った生活ができるよういろいろな分野の知識・技術を習得していきましょう。

3 評価について

(1) 評価の観点

観 点	趣 旨
①関心・意欲・態度	・家庭や地域の生活についての関心、学習に対する意欲的な取り組み、生活での実践的な態度が身に付いたか。 ・課題について理解し、積極的に自分の意見や考えを述べるなど、意欲的に取り組むことができたか。
②思考・判断	・家庭や地域の生活についての課題を主体的に解決するために考え、工夫し創造する力が身に付いたか。 ・適切な情報を選択し、効果的なプレゼンテーションに向けて取り組むことができたか。
③観察・実験の技能・表現	・家庭や地域の生活を営むために必要な基礎的、基本的な技術が身に付いたか。 ・アンケート調査の手法や効果的なプレゼンテーションの手法を習得し、自分たちの意見や考えをわかりやすく伝えることができたか。
④知識・理解	・家庭生活に関する基礎的、基本的な知識が総合的に身に付いたか。 ・客観的なデータを収集するための調査の手法を理解し、収集した情報を分析することができたか。

(2) 評価の方法（以下観点①～④は「(1) 評価の観点」と対応する）

観 点	評価材料	定期 考 査	単元 テ ス ト	小 テ ス ト	実技 実 習	発言 発 表	作 品	レポ ー ト	ノ ー ト	ワー ク シ ャ ー ト	討 議		
①関心・意欲・態度					○	○	○	○		○	○		
②思考・判断		○			○	○	○	○		○			
③実習の技能・表現		○			○	○	○	○		○			
④知識・理解		○		○		○		○		○			

〈担当者からのメッセージ〉

○生きる力をつけるための学習です。人生を豊かに送るために様々な知識と技術を身に付け、応用できるよう積極的に実習に取り組みましょう。
 ○授業で学んだことをその時間で終わりにせず、すぐに実践してみましょう。

■本校で目指す生徒像と身につける資質・能力

高い知性						豊かな人間性			健康な心身		郷土愛と国際性	
探究心		情報活用力		調整力		自律心	寛容さ	感受性	生命尊重の心	強くしなやかな心身	日本人としての誇り	多様性の尊重
関心・意欲	問題発見力	情報収集力	論理的思考力	共感的態度	意見交換・調整力							
A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M
課題に関心を持ち、問題発見・解決へ向けて意欲的に取り組むことができる。	生じている問題や今後生じうる問題について理解し、解決方法を提案することができる。	多様な視点から必要な情報を収集し、整理・分析し、意見に結びつけることができる。	事象や関係を把握し、多様な情報を整理し、共感的に理解し、論理的に思考することができる。	相手の感情、思考、行動を理解し、共感的に理解し、論理を示すことができる。	他者の主張を理解し、自分の主張と調整し、互いに納得できる結論を得ることができる。	強い意志をもち、周囲に流されることがなく、困難に立ち向かうことができる。	異なる価値観や多様な特質を理解し、尊重しながら、互いを高め合うことができる。	有形無形の美や自然に対し、その価値を素直に受け止めることができる。	命の尊さと健康の大切さを理解し、何より自他の生命を尊重することができる。	困難に負けない強い心と体をもち、あらゆる課題に対して柔軟な対応ができる。	郷土に対する深い理解と愛着をもち、日本のよさを伝えることができる。	世界の多様性を理解し、多面的・多角的な視野から他者と接することができる。

家庭基礎 授業計画

月	単元	学習内容	評価の観点	考查等	資質・能力
4	第1章 人生をみつめる	・各ライフステージの特徴と課題について学ぶ。(2時間)	①④各ライフステージの過ごし方について理解することができたか。		A
	第2章 家族・家庭と社会	・家族の特徴や家庭の機能について学び、問題点を考える。また、社会福祉制度や社会福祉等の仕組みを学ぶ。(3時間)	④個人・家庭・社会との関わりについて理解を深め、制度や法律等について理解したか。		ABG
5		・家族、職業労働に関する基礎的な法律を学び、これから作り上げていく家族・家庭、また、自分自身の生き方について考える。(3時間)	②③現代の社会が抱える問題について考えることができる。		ABH
	第11章 生活をデザインしよう	・生活創造ホームプロジェクト	①②③④より良い生活を送るための活動ができたか。		A～M
	第9章 住生活をつくる	・ライフステージや生活行為等に配慮した住空間を設計する。(5時間)	①③適切な住環境の在り方を理解し、自分たちの生活に結びつけ考えることができたか。		ABH
	第7章 食生活をつくる	・世界の食糧事情や食品の安全性について学ぶ。(4時間)	①②自分自身の食生活について、考えることができるようになったか。		A
		・食生活に直結した栄養素について学ぶ。(5時間)	②③栄養素の基礎知識・調理技術が身に付いたか。		AEFHKIJ
6		・調理実習を通して、食品の組み合わせや調理技術、献立について学ぶ。(8時間)	②③献立作成ができるようになったか。		ABCHJ
	第8章 衣生活をつくる	・被服の意義を知り、機能を活かした着用について学び、被服管理に関する基礎的な技術を身につける。(6時間)	①④被服の役割について興味を持ち、日々の衣生活に活かすことができる知識が得られたか。	中間考查	ABC
7			②③基礎的な被服の管理・補修ができるようになったか。		ABCG
8					
9	第6章 経済生活をつくる	・現代の消費者トラブル等について学び、消費者としてどのように消費社会と関わるか考える。(2時間)	④消費者問題について理解を深めることができたか。		AB
			③④経済計画の必要性を理解できたか。		AB
10		・家庭経済と国民経済の関わりや、家庭の支出の適切な管理を学ぶ。(4時間)	①②④家計管理を適切に行うための知識を理解することができたか。		ABCDHIJ
11					
12	第10章 持続可能な社会をつくる	・環境負荷の少ない消費生活を考える。(2時間)	②③地球環境の現状を理解し、問題に気づくことができたか。問題解決に向けての実践ができるか。	中間考查	ACJ
1	第3章 子どもを育てる	・自分自身の成長過程を振り返りながら、子どもの育つ力について考える。(1時間)	④子どもの心身の特徴について理解することができたか。		ABC
		・子どもの誕生や親と子どもとの関わりについて学ぶ。(6時間)	①②④子どもが誕生するまでの過程や日本の子育ての問題点について理解することができたか。		ABCJ
			②子どもの育つ環境と現状を理解し問題点に気づき、解決策を考えることができたか。		ABCDEJ
2	第4章 高齢者の生活と福祉	・高齢社会を生き抜く術を考える。(2時間)	①高齢期という時期を理解することができたか。		ABJKLM
3			②④現状の高齢者福祉の中にある問題点について理解することができたか。		

※授業内容を前倒しで行う場合があります。

※【関心・意欲・態度】→①、【思考・判断】→②、【観察・実験の技能・表現】→③、【知識・理解】→④として表現しています。